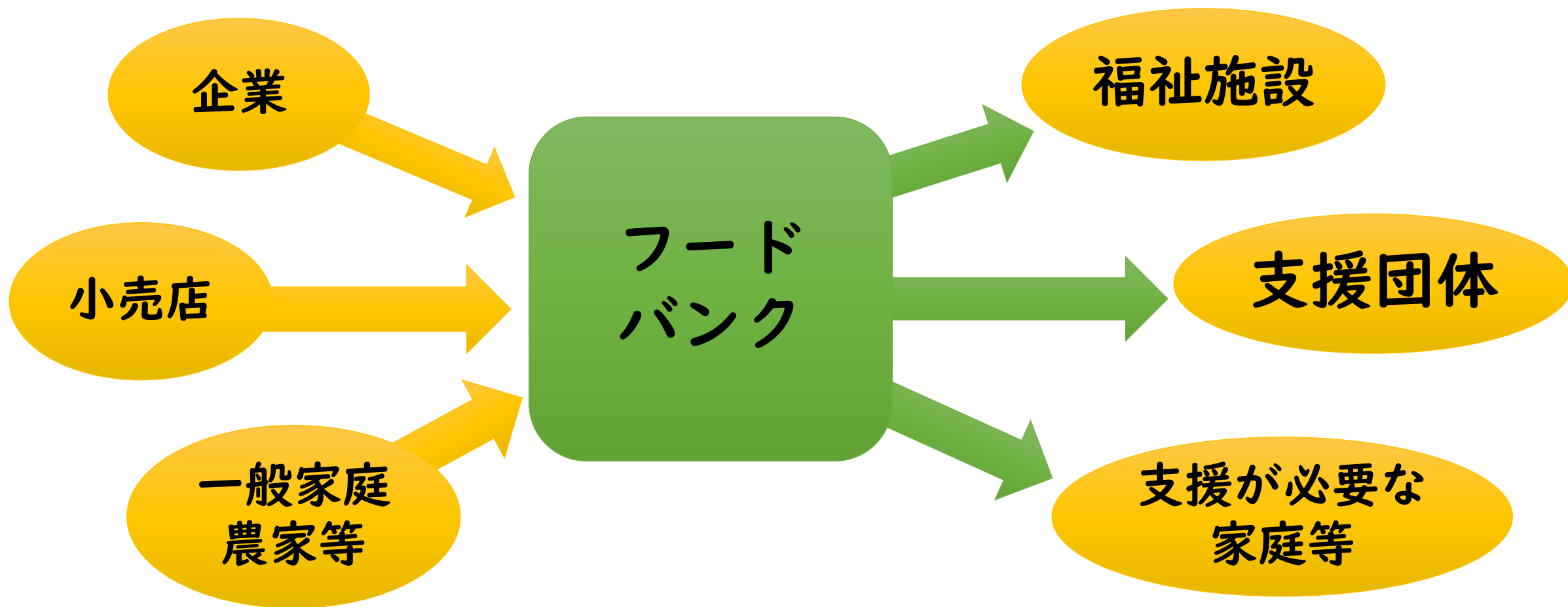


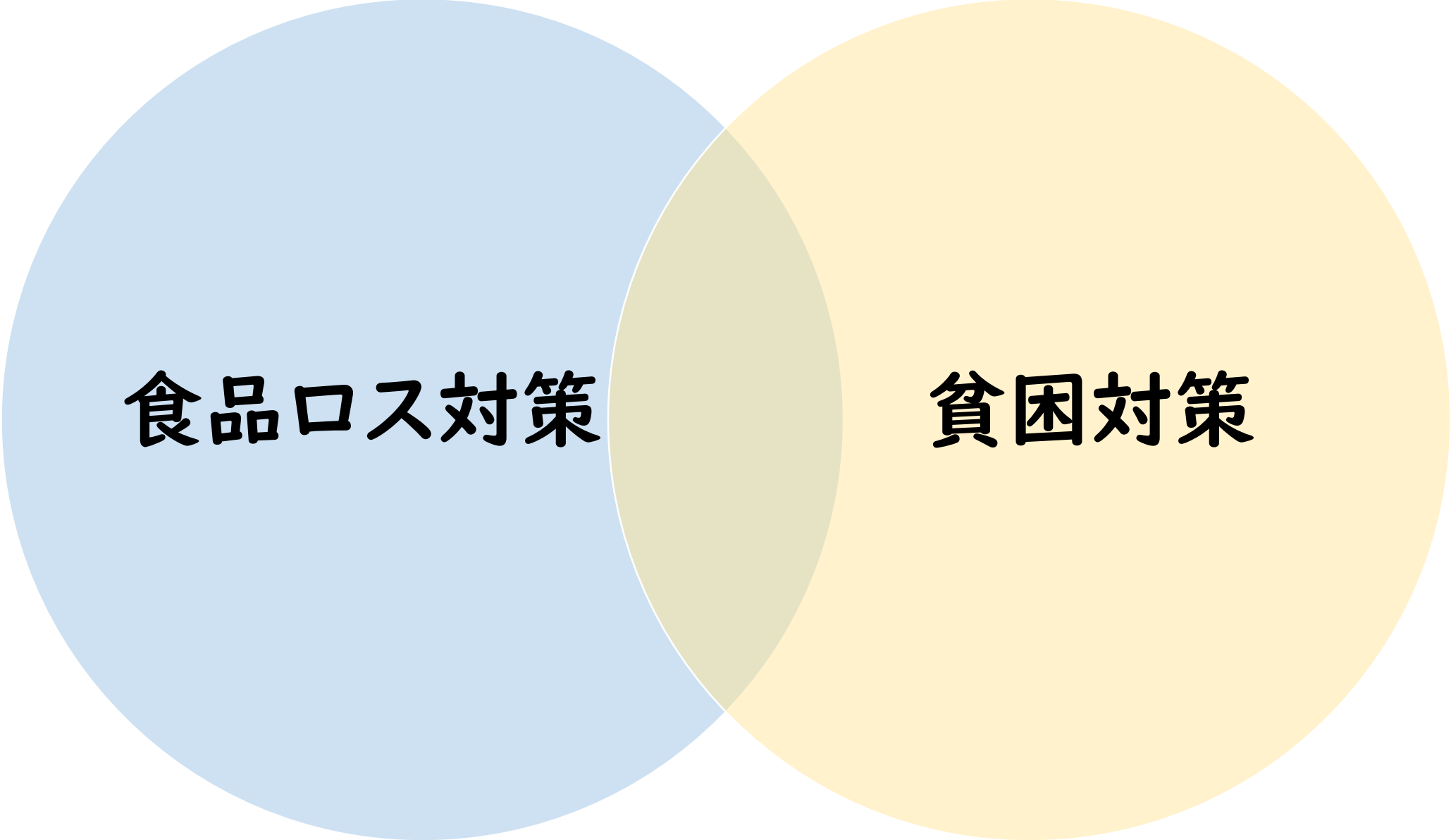
東広島食品ロス削減対策委員会

山田 伊藤

活動について
仕組み＝効率化について
研究について
今後において

フードバンクとは？





食品ロス対策

貧困対策







この半年間で進んだこと

①IT化の推進

+運営作業の効率化・取扱食品量の増加

②地域内・県域での連携

①IT化の推進

①デジタル台はかりによる重量管理の開始

→業務の効率化と正確な食品ロス削減量の把握



②在庫管理 & 利用件数記録アプリの導入

→業務効率化 & アプリ上ですぐに件数や取扱重量の統計を把握

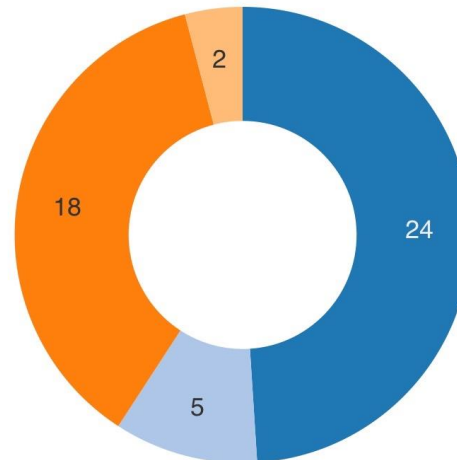


アプリ画面

【年間】提供件数 2024.01～

提供者区分

個人 企業 行政 団体

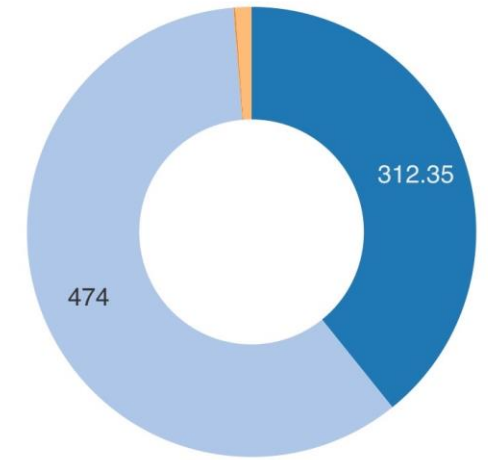


年間取扱件数

【年間】食品取扱量 2024.01～

提供者区分

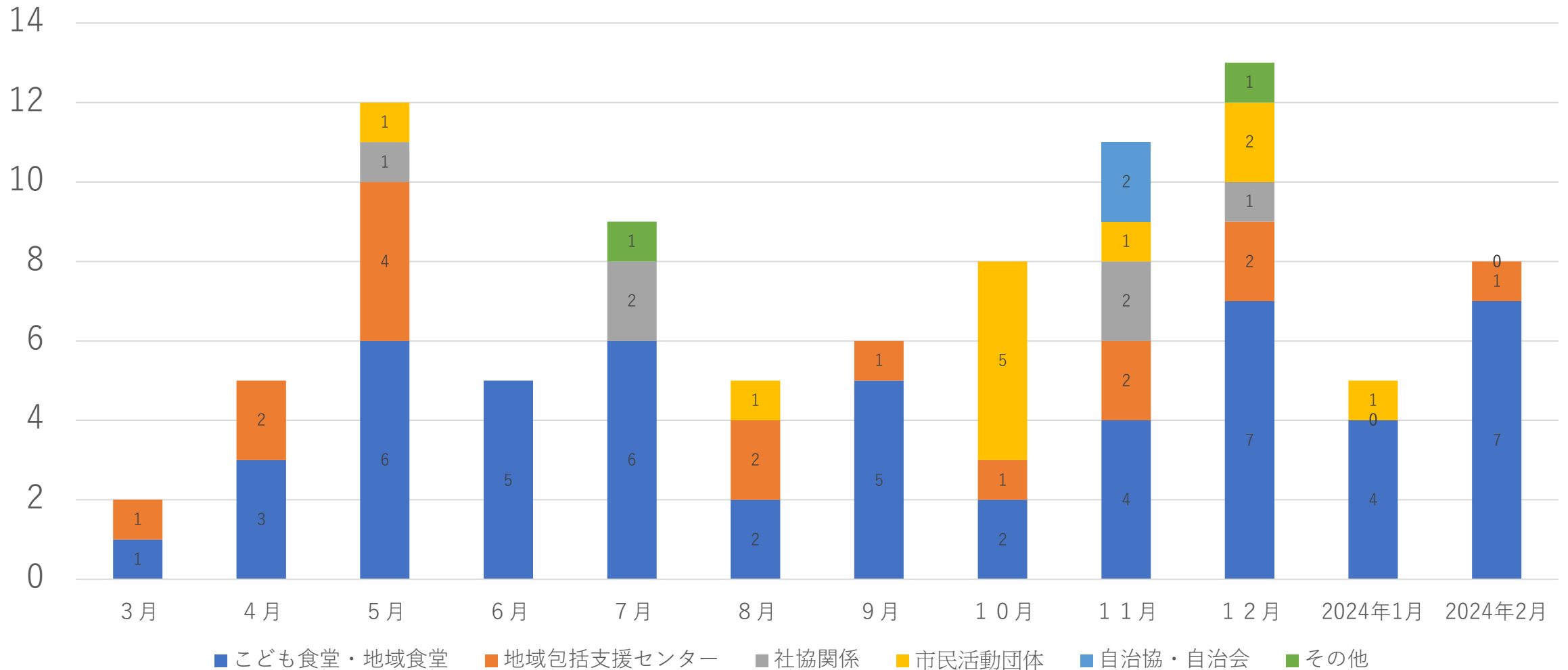
個人 企業 行政 団体



年間取扱重量(kg)

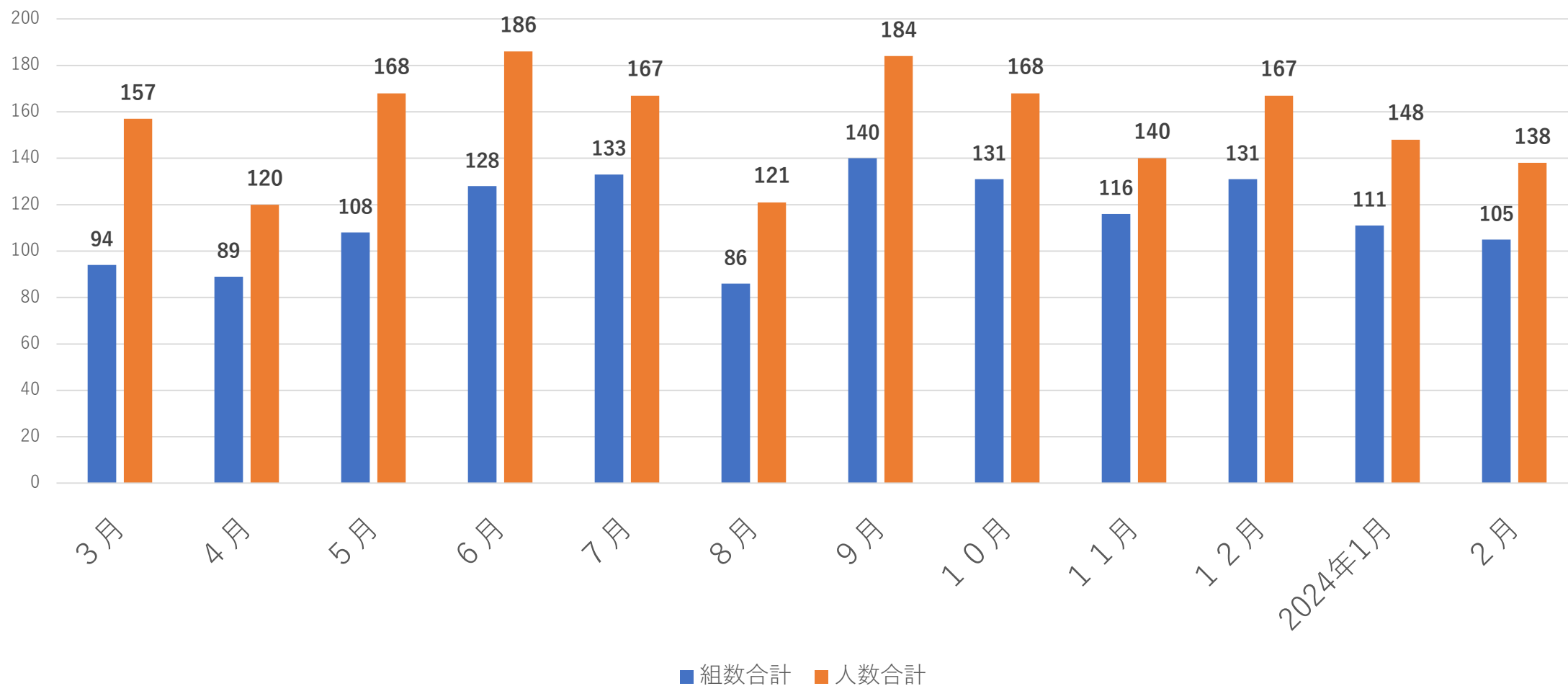
②運営作業の効率化 取扱食品量の増加

(月別) 食品受取団体の利用件数の推移

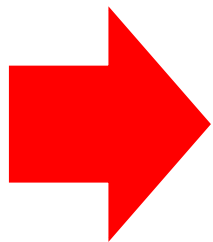
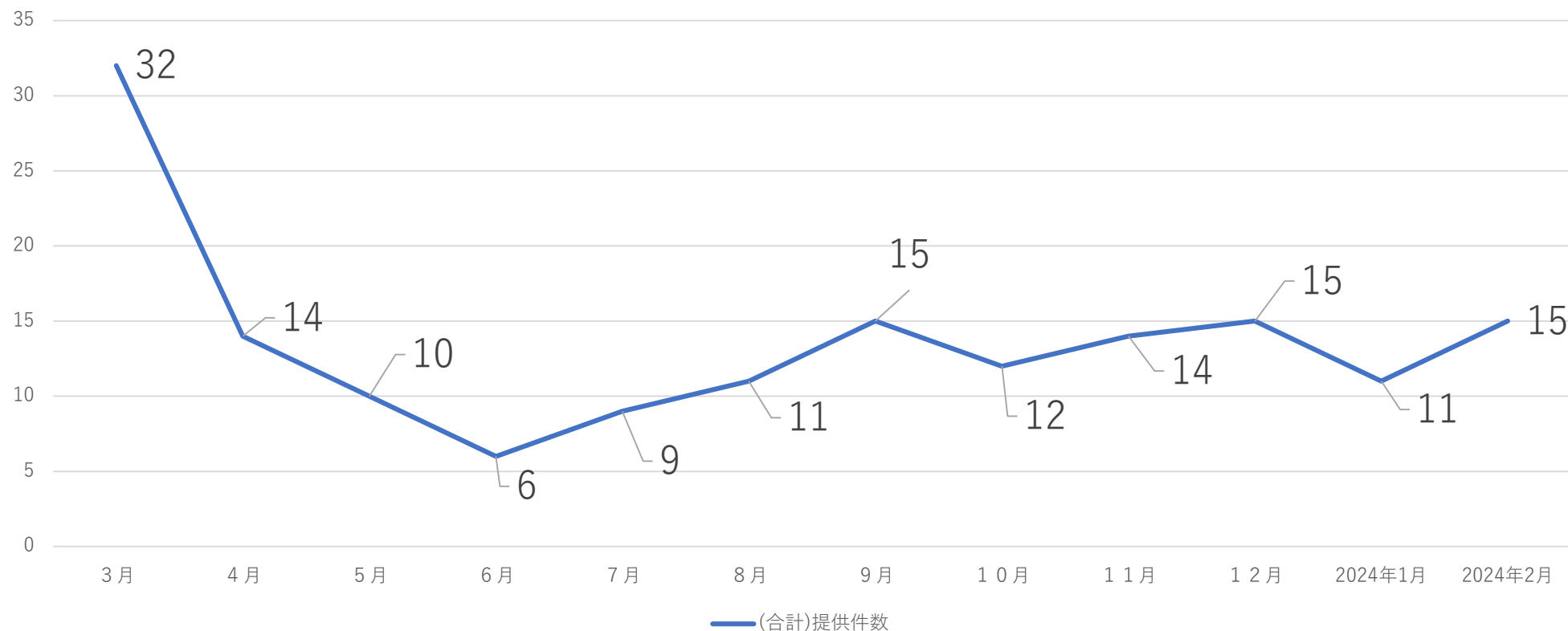


(月別) 個人の食品受取利用者の推移

2023年3月-2024年2月

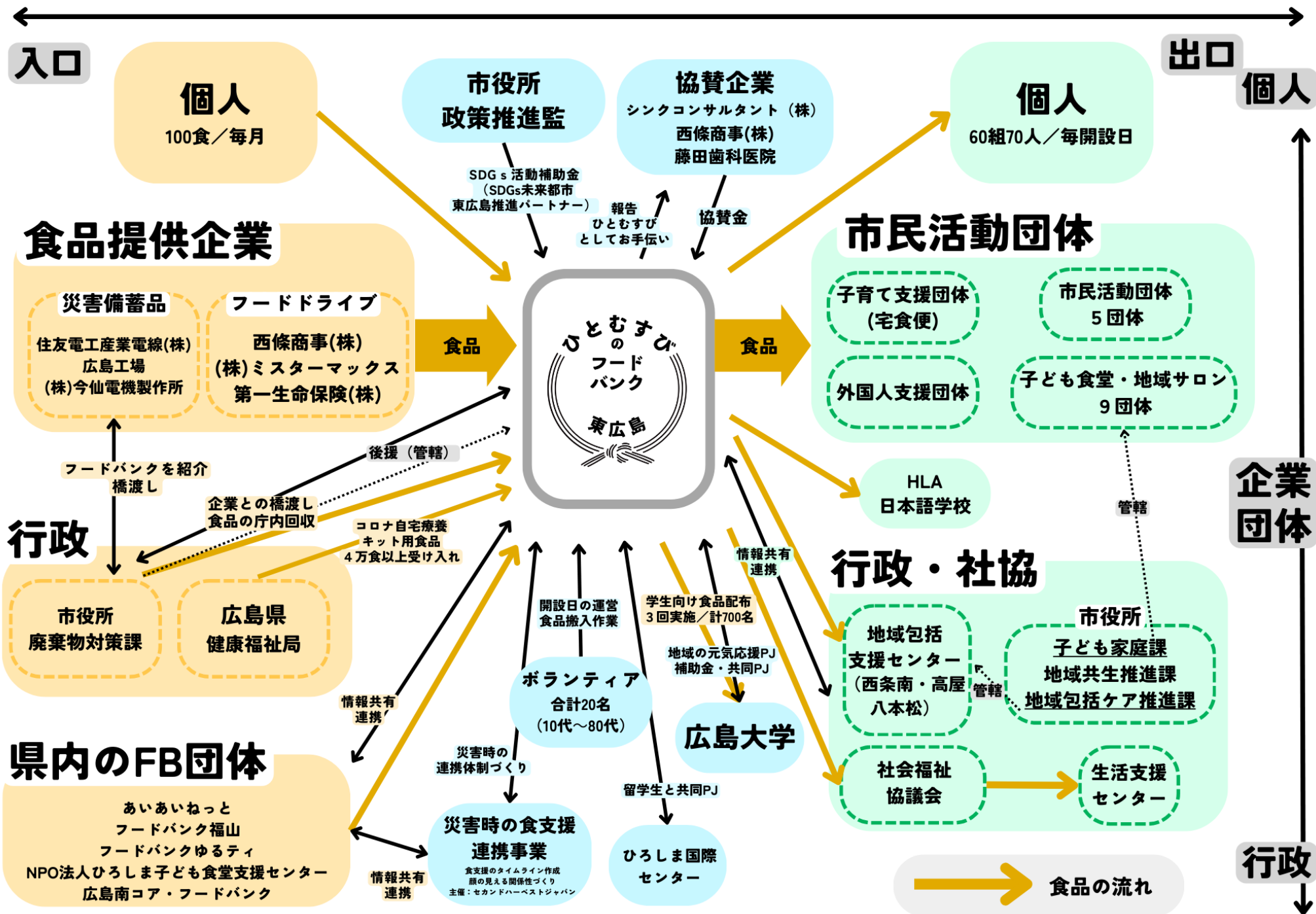


(月別) 提供件数【個人・団体の合計】



**2023年2月－2024年2月までの
年間食品取扱量は推計5トンを超える**

②地域内・県域での連携



県内のフードバンク団体の視察

①特定非営利活動法人 F O O T & W O R K フードバンクゆるティ

日時：11月24日

場所：広島市安芸郡海田町

②社会福祉法人正仁会 フードバンク あいあいねっと

日時：12月1日

場所：広島市安佐北区可部

③特定非営利活動法人 環境保全創生委員会

広島南コア・フードバンク

日時：11月29日

場所：広島市南区宇品海岸

県内団体の視察 中四国エリアの勉強会に参加

11/18

中四国フードバンクシンポジウム

中四国のフードバンクが集い
フードバンク活動の社会的意義や役割
運営ノウハウを学ぶ



県内団体3か所の視察

運営ノウハウを学ぶと共に、顔の見える関係性をつくり
広域の連携体制構築を目指す

- ①フードバンクゆるてい(安芸区中野東)
- ②あいあいねっと(安佐北区可部)
- ③広島南・コアフードバンク(広島市南区)



研究でのインタビュー調査の実施

第4章 インタビュー調査

フードバンク東広島(以下、フードバンク)の利用者や連携団体に対して、フードバンクの利用に際してどのように感じているのか、また個人や地域に対してどのような影響を与えているのかについて調査を行うことを目的として実施した。

- 4 - 1 調査対象者の詳細
- 4 - 2 食品受取(個人)・食品提供(個人)
 - 4 - 2 - 1 Mさんの語り
 - 4 - 2 - 2 Nさんの語り
 - 4 - 2 - 3 Kさん親子の語り
- 4 - 3 食品受取団体
- 4 - 4 東広島市社会福祉協議会
- 4 - 5 食品提供企業

名前	性別	年齢	フードバンクとの関わり	章／節／項	所属・職業
M	女性	30代	食品の受取(個人) 食品の提供(個人)	4 - 2 - 1	小学校教員
N	女性	40代	食品の受取(個人)	4 - 2 - 2	T(娘) 会社員 L(母) なし
K (親子)	女性	T(娘) 30代 L(母) 50代	食品の受取(個人)	4 - 2 - 3	
U	女性	60代	食品の受取(団体)	4 - 3	高屋西こども食堂 結・代表 元保育士(園長)
Y	女性		連携団体	4 - 4	東広島市社会福祉協議会(地域福祉課職員)
R	男性		食品提供企業	4 - 5	食品提供会社社長

表 11 調査対象者の属性

インタビューを通して感じたこと

文化人類学の分野では、
モノのやりとりが様々な作用を生み出すと様々な議論が行われてきた



フードバンク東広島では食品のやりとりによって
多様な社会関係を生み出していることが明らかになった
一方で、食品を受け取る側が感じる「負い目」には
多様なグラデーションがみられた



地域内での見知らぬ他者との「食品の分け合い」と考えることもできた

第1章 序論

小田亮(2019 : 1-15) 「混成態」の概念

小田はモースやグレーバーの議論を踏まえ、南部アフリカのクン・サン社会を例に、狩猟採集社会での「分配＝シェアリング」と贈与交換による「混成態」という概念を提示
「グレーバーのいう基盤的コミュニズムの基盤を成しているものだ」(小田 2019 : 1-15)



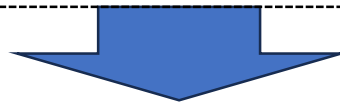
【クン・サン社会】

肉の分配 = 負い目を生成しない
×
矢の贈与交換 = 負い目を生成し
持続的な関係の構築



【混成態】

「分配＝シェアリング」×贈与交換



中心や負い目の生成を防ぎつつも持続的な関係の構築が可能になると論じた
実際の社会では多様な交換様式が複雑に絡まりあいながら「混成」して存在している

第1章 序論

贈与論からみたフードバンク

- ①与え手と受け手がモノのやりとりにおいて接触することを防ぐことによって、
負い目の生成を防ぐ仕組みである
- ②与え手と受け手の双方で行政や企業、地域団体、個人などと食品のやりとりを通して
社会関係を生み出している
- ③食品ロスは資本主義市場経済の中で構造的に生み出されている(1-2-1)



資本主義の外側で新たなモノの循環が起こっている、
すなわち互酬性に基づいたモノのやりとりが生じていると捉えられる



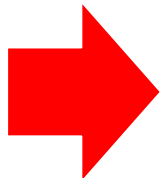
しかしグレーバーや小田の議論を踏まえると
フードバンクを互酬性の概念だけで捉えきることにはできるのだろうか

第5章 考察

「混成態」としてのフードバンク(5-3)

結論

- ①フードバンク東広島での食品のやりとりを捉える上では「分配＝シェアリング」と贈与交換の「混成態」の概念が有効であった
- ②「分配＝シェアリング」と贈与交換の要素が複雑な絡まり合いを見せるモノのやりとりにおいては、反対給付の度合いにグラデーションが見られた
- ③小田やグレーバーのいうように複数の交換原理やモラルの併存によって成り立つ基盤的コミュニズムが混成態として捉えることができた



「混成態」の概念の現代的意義と贈与論の新たな展開可能性を示唆した

今後に向けて
地域内でなくてはならない存在
大学へも必要な支援をできるフードバンクへと
少しずつ改良していきたいと思っています！

+

研究対象として、扱いたい学生がいれば
ぜひ今後も連携していきたいです！！